

図表一覧(1)

表1-1A	『篠原推計』主食類(含陸海軍糧食費) 年間消費数量(1909-40) 単位トン, g/人	
表1-1B	『篠原推計』副食類(含陸海軍糧食費) 年間消費数量(1909-41) 単位トン, g/人	
表1-1C	『篠原推計』主食類(含陸海軍糧食費) 1人1日当たり年間消費数量(1909-42) 単位 g/人	
表1-1D	『篠原推計』副食類(含陸海軍糧食費) 1人1日当たり年間消費数量及び指数(1909-43) 単位 g/人 指数基準:1909-11=1, 1921-23=1	
表1-2A	缶詰 国内生産金額及び数量 当年価格	
表1-2B	缶詰 国内消費金額, 国内消費単価, 1人当たり実質消費金額(1921-40)	
表1-3	市販缶詰開缶研究会開催表, 開催場所, 審査員, 審査方法他	
表1-4A	市販缶詰開缶研究会評価表, 『缶詰時報』100g当たり換算価格及び平均価格(第1次~第9次)	価格単位銭
表1-4B	市販缶詰開缶研究会評価表, 『缶詰時報』101g当たり換算価格及び平均価格(第10次~第17次)	価格単位銭
表1-5A	市販缶詰開缶研究会評価表, 内容量に対する固形量比率(第1次~第8次)	
表1-5B	市販缶詰開缶研究会評価表, 内容量に対する固形量比率(第9次~第17次)	
表1-6	缶詰消費価格 缶詰協会価格資料と『缶詰時報』掲載価格	
表1-7	ソース 各民間統計の比較による生産量推計(1921-40) 単位トン	
表1-8	ブルドックソース 1940年4月30日 東京府許可協定価格(仕切り価格と小売価格)	
表1-9	トマトケチャップの生産量推計(1921-40) 単位千トン, トン	
表1-10	1955年 トマトケチャップ 仕切り価格, 小売価格, 流通マージン推計	
表1-11	ソース・ケチャップ類 実質販売金額(『鉱工業』と民間統計) 1人当たり実質消費金額, 1人1日当たり消費量	
表1-12	たばこ 『篠原推計』と『たばこ専売史』消費量, 実質消費金額 単位千本, 千円, 本/人/日	
表1-13	グルタミン酸ソーダ 1人当たり国内消費量	
表1-14	『農林省』漁獲量推計(14921-40) 単位千貫, 石, 尾	
表1-15	魚類鉄道貨物発送数量, 篠原推計, 学術振興会, 港湾統計, 農林省統計.	
表1-16	『学術振興会』水産食料の推計, ケース I, II. 単位千貫, トン	
表1-17	『学術振興会』「内地における食用水産物全生産高, 可食分量」(ケース I)と『農林省統計』漁獲量 1921, 1925, 1931-35.	
表1-18	『農林省』内地海面漁獲量, 『港湾統計』内地海面移入量, 『港湾統計』内地海面推計系列, 『学術振興会』生産高, 可食量, 魚類生産高推計	
表1-19	『学術振興会』「内地における食用水産物全生産高明細表」をもとにした推計(1936-40年)	
表1-20	学術振興会消費量(修正)「水産物輸出入, 移出入差し引き高可食分量」1921-40年 単位千貫, トン.	
表1-21	1人当たり魚類消費量と魚類実質消費金額の新推計(1921-40) 単位g/人, 円/人	
表1-22	食料費 1人1日当たりの消費量 『篠原推計』と本推計(数量系列) 単位 g/人/日	
表1-23	食料費 1人1日当たりの実質消費金額 『篠原推計』と本推計(金額系列) 単位 円/人	
図1-1	1909-40年, 『長期経済統計』国民総生産, 個人消費支出総額, 食料費支出, (1934-36=100価格), 単位 円/人	
図1-2A	缶詰 生産量, 輸出量, 国内消費量(1894-1940) 単位 函	
図1-2B	缶詰 国内単価 輸出単価(1894-1940) 単位円/函	
図1-3	農林省漁獲量, 篠原推計, 鉄道貨物, 港湾移入量, 学術振興会推計, (1921-40) 単位 千トン	
図1-4	魚類消費量(篠原推計, 学術振興会推計, 本稿新推計)1921-41年 単位 千トン	
図1-5	食料費1人1日当たり消費量(『篠原推計』合計, 合計+補正, 主食, 副食+補正)1921-40年 単位g/人	
図1-6	食料費1人1日当たり実質消費金額(『篠原推計』合計, 合計+補正, 主食, 副食+補正)1921-41年 単位円/人	

図表一覧(2)

表2-1	『篠原推計』米類を除く主食類(含陸海軍糧食費)年間消費数量 市販量(1906-40) 単位トン g/人/人	
表2-2	『篠原推計』主食類(徐米類, 含陸海軍糧食費) 1人1日当たり消費数量 単位 g/人	
表2-3	わが国の1人1日当たりの純食料供給量(唯是推計) 単位g/人 指数①②③の基準は1909-11=100.	
表2-4	年間1人当たり飯米他消費量(農林省推計と篠原推計)	
表2-5	年間1人当たり飯米他消費量(八木推計と本推計)一八木推計はすべて米穀年度	
表2-6	『篠原推計』甘薯, 馬鈴薯, 実質金額 単位千円	
表2-7A	『篠原推計』における実質消費支出金額(含陸海軍糧食費)主食 単位千円	
表2-7B	『篠原推計』における実質消費支出金額(含陸海軍糧食費)主食, 副食, 合計 単位千円	
表2-8	1人当たり陸海軍糧食費(1911-40) 単位千人, 千円, 円/人	
表2-9A	1931-35年 内閣統計局『家計調査報告』各所得別 月間消費支出金額一①	
表2-9B	1936-40年 内閣統計局『家計調査報告』各所得別 月間消費支出金額一②	
表2-10	1927年, 1931-40年 内閣統計局『家計調査報告』各所得別 月間消費支出金額比率 単位 %	
表2-11	戦後の飲食店 軒数, 従業者, 売上高(1952, 1954, 1958年)	
表2-12	百貨店売上高推計(1921-40) 単位千円 %	
表2-13	百貨店における食堂・喫茶売上と飲食費の推計(1921-40) 単位千円	
表2-14A	外食費推計一飲食店, 料理屋及び百貨店食堂(1921-40)一①	
表2-14B	外食費推計一飲食店, 料理屋及び百貨店食堂(1921-41)一②	
図2-1A	『篠原推計』食料数量系列 副食, 主食②, 合計③(1909-40) 単位g/人	
図2-1B	『篠原推計』食料金額系列 主食, 副食, 合計(1909-41) 単位円/人	
図2-1C	1909-40年 『篠原推計』食料消費指数, 実質金額指数(1909-11=100)	
図2-1D	1人当たり食料費実質消費金額(『篠原推計』と本推計)1921-40年 単位円/人	
図2-1E	食料費支出, 個人総支出, 粗国民生産, 合計+補正+外食費 単位 円/人	
表3-1	農業者, 給料生活者, 労働者 消費単位当たり食料消費量, カロリー消費量 単位 グラム/人/日, カロリー/人/日	
表3-2A	原朗「両大戦間期の階級構成に関する試算」のA,B,C,D,分析	
表3-2B	階層の再編成	
表3-3	1927年 給料生活者, 労働者, 農業従事者, 新中間層 消費単位1人1日あたりのカロリー消費	
表3-4	食料費 1人1日当たり消費量; 『篠原推計』と本推計(数量系列) 単位g/人	
表3-5	1927年, 1920年, 1930年, 1940年 消費単位1人1日当たり合計消費カロリー, 飯米消費カロリー, その他消費カロリー	
表3-6	1920年, 30年, 40年 階層別 消費単位1人1日当たり合計消費量 単位;カロリー, 百万カロリー	
図3-1	『篠原推計』数量系列 主食, 米類, 徐米類主食	

図表一覧(3)

表4-1	『農家経済調査』、『家計調査報告』の農家世帯全階層平均経営概略と年間平均支出比率(1921-41)
表4-2	1900-40年 農業付加価値額 当年価格, 固定価格(1934-36=100)
表4-3	『農家経済調査結果表』調査対象農家 継続世帯(1930-41)
表4-4	1935年基準 農家世帯 受領小作料(小作農6, 自小作農20, 自作農42世帯)
表4-5A	『農家経済調査』主食の分類・概算要領
表4-5B	1935年基準農家世帯 年間世帯員1人当たり米類消費量 単位kg/人
表4-5C	1935年基準 米類生産量, 買米量, 販売量, 納入小作料, 家事仕向量, 繰越他.
表4-5D	1935年基準 農業収入, 兼業収入 単位 円/世帯
表4-6A	1931-35年 内閣統計局『家計調査報告』所得階層別 月間消費支出金額一①
表4-6B	1936-40年 内閣統計局『家計調査報告』所得階層別 月間消費支出金額一②
表4-7	1931-40年 内閣統計局『家計調査報告』所得階層別 月間世帯当たり 食料費支出金額と比率
表4-8	『農家経済調査』1935年基準 世帯当たり年間労働時間
表4-9	1935年基準 47道府県326世帯 基本統計量
表4-10	支出弾力性値 戦前戦後の農家世帯と都市住民
表4-11	『農家経済調査』公表世帯 食料費支出弾力性
表4-12	1931-40年 内閣統計局『家計調査報告』各費目支出弾力性値
表5-1	1930年 函館港 魚類移出入量 単位トン
表5-2	1931年 青森港 魚類移出入量 単位トン
表5-3A	1930年 算出移出入量, 1930年 最大移出入量, 不一致移出入量(1)
表5-3B	1930年 算出移出入量, 1931年 最大移出入量, 不一致移出入量(2)
表5-3C	1930年 算出移出入量, 1932年 最大移出入量, 不一致移出入量(3)
表5-4	魚類の港湾流通一算出数量・最大数量(1921-40) 単位トン %
表5-5A	①鮮魚介移出量不一致 門司港と下関港 単位トン %
表5-5B	②鮮魚介移出量不一致 下関港と若松港 単位トン %
表5-6	塩乾魚 移入不一致量 青森港と函館港
表5-7	1920年, 1937年 塩乾魚・鮮魚介 鉄道輸送各駅発着数量及びシェア 単位トン %
表5-8A	鮮魚介・塩乾魚 移出量(ケースA)地域別シェア(1921-40年) 単位トン
表5-8B	鮮魚介・塩乾魚 移出量(ケースA)地域別シェア(1921-40年) 単位 %
表5-9A	鮮魚介・塩乾魚 移入量(ケースA)地域別シェア(1921-40年) 単位 トン
表5-9B	鮮魚介・塩乾魚 移入量(ケースA)地域別シェア(1921-40年) 単位 %
表5-10	魚類の海上輸出・輸入数量(1921-40) 単位トン %
表5-11A~F	函館, 青森, 下関, 東京, 大阪, 塩釜 鮮魚介・塩乾魚海上移出入量・到着量 単位トン
表5-12	魚類鉄道貨物と全鉄道貨物の年間発送数量 単位トン, 指数: 1916-20=100
表5-13	1937年全国市町村における鉄道省・連帯線駅数
表5-14	1937年全国鉄道省・連帯線における鉄道駅開設町村数

図表一覧(4)

表5-15	1937年全国鉄道省直轄駅開設町村における鮮魚介と塩乾魚の到着・発送駅
表5-16	1935年基準 『農家経済調査』に現れた鉄道省と連帯線の鉄道駅開設市町村数
表5-17A	1935年基準 『農家経済調査』47道府県326世帯所在地及び年間魚類到着量(1)
表5-17B	1935年基準 『農家経済調査』47道府県327世帯所在地及び年間魚類到着量(2)
表5-17C	1935年基準 『農家経済調査』47道府県328世帯所在地及び年間魚類到着量(3)
表5-17D	1935年基準 『農家経済調査』47道府県329世帯所在地及び年間魚類到着量(4)
表5-17E	1935年基準 『農家経済調査』47道府県330世帯所在地及び年間魚類到着量(5)
表5-18A	魚類消費性向計測のための設定条件
表5-18B	魚類消費性向計測 結果表
表5-18C	近距離地帯(5.0km以内)と遠距離世帯(5.1km以上)
図5-1	農林省漁獲量統計(内地海面, その他海面, 養殖, 捕鯨) 1921-40年 単位トン
図5-2	魚類 港湾移出量地域別シェア(1921-40)
図5-3	魚類 港湾移入量地域別シェア(1921-41)
図5-4	1920年 魚類 海上・陸上輸送経路
図5-5	1937年 魚類 海上・陸上輸送経路
表6-1	業界別新聞広告行数(1933-1940) 単位千行 %
表6-2	食品会社企業別 東京, 大阪, 地方紙(合計34紙)広告行数(1933-40)
表6-3	1935年 東京朝日新聞, 東京日日新聞, 河北新報 食料品新聞広告 東京 大阪および府・県外広告主
表6-4	1935年 地方95新聞中23新聞 産業別広告行数 単位 千行
表6-5	1935年 山形新聞 食料品新聞広告—山形県内広告主
表6-6A	食品メーカーの全国特約店と発売元(1)
表6-6B	食品メーカーの全国特約店と発売元(2)
表6-6C	食品メーカーの全国特約店と発売元(3)
表6-7	大蔵省主税局免許酒類 小売販売業者(酒造年度翌年9月末日現在)
表6-8	大蔵省主税局免許酒類 卸売販売業者(酒造年度翌年9月末日現在)
表6-9	酒類販売業 卸売 小売免許状
図6-1	食料品(味の素)価格体系(定価=100)
図6-2	缶詰開缶研究会 基準採用率 ①サニタリー缶②標準缶型③内容量④内容表示(1922-40)
図6-3	1935年 缶詰開缶研究会 基準採用率 ①サニタリー缶②標準缶型③内容量④内容表示